

第6回教育研究評議会記録

日 時 平成21年11月11日(水) 13:32～15:27
場 所 柏原キャンパス事務局棟 大会議室
出席者 長尾, 栗林, 岩川, 木立, 成山, 野田, 宮野, 横井, 正木, 森, 米川
石田, 越桐, 中井, 高橋, 高山, 藤井, 畦(18名)
陪席者 野口監事
傍聴人 渡邊昭子准教授

開会に先立ち、長尾学長より議事の進め方について、開催通知の順番に進める旨の発言がなされた。さらに、傍聴申請があった1名に対して、傍聴が認められた。その後、平成21年度第5回教育研究評議会の記録確認がなされた。

議題(1) 平成22年度の教員配置について

長尾学長から資料に基づき説明が行われ、質疑応答の結果、原案どおり了承された。

【主な質疑】

- 英語教育講座の教員2名の辞職を受けて急遽1名新規配置し、大学院設置基準の成立要件を充足させるとのことだが、英語教育は、今年採択されたGP(教える「英語力」向上プログラムの構築)等、これからの本学で重要な役割を果たすことになるので、今後の配置計画の中でさらに1名新規配置する予定はあるのかとの質疑に対して、今回は緊急的に1名採用することになったが、これで十分とは考えていない。残り1名については平成23年度の教員配置計画の中で考慮していきたいとの答弁が長尾学長よりなされた。

議題(2) 第2期中期目標・中期計画について【継続審議】

長尾学長から資料に基づき説明が行われ、質疑が行われた。

【主な質疑】

- 本件について、今後はどのように取り運ばれていくのかとの質疑に対して、文部科学省への提出時期だが、第2期中期目標・中期計画(原案)は1月中旬に提出して、平成22年度年次計画は3月の末日まで検討を行った上で提出する予定であるとの答弁が岩川理事よりなされた。
- 第2期中期目標・中期計画(原案)の提出に向けて、今後どのように取り運ぶのかとの質疑に対して、12月中旬の教授会で審議→1月の教育研究評議会及び経営協議会で審議→役員会で決定という流れで取り運ぶこととなるとの答弁が岩川理事よりなされた。
- 平成22年度年次計画を策定するには、まず向こう6年分を確定させる必要があるのではないのかとの質疑に対して、少なくとも4年間の目処を付けていきたいと考えているが、課題によっては終了時期が区々なので個々に柔軟に対応していかなければならないとの答弁が長尾学長よりなされた。
- 教務委員会が関与する事項は数も多く、本学にとって最も重要な内容と考えられるので、学長が全面に出て調整することが必要ではないのかとの質疑に対して、それぞれの委員会等とすり合わせを行いながら、リーダーシップをもって決定していきたいとの答弁が長尾学長よりなされた。

- ・ 年次計画について、今後の学内手続きはどうかとの質疑に対して、全学的な組織である教務委員会や入試委員会等で原案を作成のうえ教育研究推進室で取りまとめる方向であるとの答弁が長尾学長よりなされた。
- ・ 年次計画について、教育研究推進室から教務委員会や入学試験等企画委員会に対して照会されているか否かについては、組織上これらの委員会と室は当然連携をとっているし、責任の所在の観点からも部局への照会という形式は採っていないとの長尾学長からの答弁に対して、室会議で審議した原案を全学委員会である教務委員会や入学試験等企画委員会で確認し、室の原案資料も評議会に提示してほしい。こういうことによって、その審議経過を構成員から見て分かるようなシステムであった方が大学運営としては望ましいと思うとの意見がなされた。
- ・ 第2期の中期目標・中期計画の策定にあたっては、できるだけ構造的に行いたいということで、大学の基本的な目標をまず策定することから始めた。それは、この目標・計画が全体として統一感を持った組み立てとなるためである。そしてその決定の過程で、全学の構成員の合意・納得・理解等が得られるような形で策定すべきであると考えてきた。その方針はこの計画等の提出に向けても同様であるとの説明が長尾学長よりなされた。

議題（3）大学・附属学校園連携推進委員会規程の制定について

長尾学長、米川附属学校部長から資料に基づき説明が行われ、質疑応答の結果、原案どおり了承された。

【主な質疑】

- ・ 参考資料に添付されているフローチャートでは情報処理センターが対象外となっている。当該センターは、初期の段階から11附属学校園のネットワーク構築に大きな関わりを持って連携をとってきた。それは単にネットワークを敷設するというだけではなく、様々な研究活動や授業の中身まで踏み込んで密接に連携して交流を深めてきた経緯がある。したがって、センターには専任教員が1名しか在籍していないが、兼任教員もいるので対象外にするのはいかがなものかとの質疑に対して、情報処理センターがこれまで果たしてきた役割等を勘案すれば対象にすることが妥当と思うので修正いたしたいとの答弁が米川附属学校部長よりなされた。
- ・ 大学・附属学校園連携推進委員会及び共同研究協議会の構成員に校園長が含まれていないが、大学が附属学校園に対してリーダーシップをとっていくという観点から、校園長を構成員に含めるべきではないかとの質疑に対して、校園長については必要に応じて「学長が指名する職員」として委員会に参加してもらうことを想定しており、柔軟に対応できるように規程を作成しているとの答弁が長尾学長よりなされた。
- ・ 現在、附属高等学校天王寺校舎ではSSHに取り組んでいるが、今後高2、高3と取組が進んでいく中で、教員の人手不足が深刻化してくると思われるので大学教員の協力をお願いしたいとの意見に対して、大学と天王寺校舎の間で協力体制をとっていきたいと考えている。また、今回の共同研究等の取組の中で協議会を越えた対応やインセンティブを付与することも含めて今後検討していきたいとの答弁が長尾学長よりなされた。
- ・ 附属学校園連携推進委員会は、教育実習についてどのように関わっていくのかとの質疑に対して、同委員会を中心として教育実習については教育実習専門委員会が実施計画や指導体制について担っているので、互いに連携をとっていくことになるとの答弁が米川附属学校部長よりなされた。

- ・ 附属との連携を模索している大学教員が存在すると思われるので、今後はできるだけ早く大学からアプローチをして研究テーマを設定し、試みるのが重要ではないかとの意見がなされた。
- ・ 大学・附属学校園連携推進委員会規程（案）は今後変更されるのかとの質疑に対して、本会了承後に役員会で審議のうえ決定する予定である。なお、共同研究協議会の要項については今後の議論を踏まえて決定するので変更の可能性はあるとの答弁が長尾学長よりなされた。

報告事項（１）平成２２年度学部学生募集要項について

野田副学長から資料に基づき報告がなされた。

報告事項（２）その他

- ・ 開学６０周年記念事業第５回シンポジウム・記念祝賀会（１１／７）について
 - ・ 平成２０年度に係る業務の実績に関する評価の結果について
 - ・ 平成２２年度入学者選抜に係る新型インフルエンザ対応について
 - ・ 新制６０周年記念大学改革シンポジウム（１２／１２）について
 - ・ 東アジア教員養成国際シンポジウム（１１／１４～１５）について
 - ・ 教大協新課程連絡協議会（１１／１３）について
- 長尾学長からそれぞれ報告がなされた。

【主な質疑】

- ・ 平成２２年度追試験実施に伴う日程変更はいつ確定するのかとの質疑に対して、本会終了後に開催される役員会で確認のうえ決定されるとの答弁が長尾学長よりなされた。

以 上